

人工乾燥材に求められる品質

1 背景・目的

一般住宅の柱や梁・桁には心持ち材※を使用する機会が多い。心持ち材は乾燥すると材表面に割れが発生しやすく、クレームの対象になりやすい。そこで、住宅を建設する工務店及び住宅資材を工務店に提供するプレカット会社にアンケート調査を実施し、心持ちの人工乾燥材に求められる品質を明らかにし、乾燥材生産事業者向けの普及資料を作成する。

※髓を含む木材

2 技術のポイント

- (1)人工乾燥材に求められる含水率、表面割れ長さ及び木口面の割れ長さ(図 1)は、それぞれ、15~20%、材長の 4 分の 1 以下及び 100mm 以下である。
- (2)(1)の要件を満たす乾燥条件について、乾燥材生産事業者向けの普及資料を作成した。その内容は、適切な乾燥条件が一目で分かるように、乾燥条件、割れ、強度試験結果及びコメントが見開きで配置されている(図 2)。

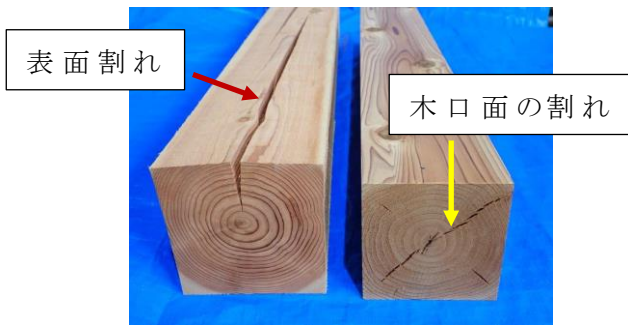


図 1 表面割れ(左)と木口面の割れ(右)

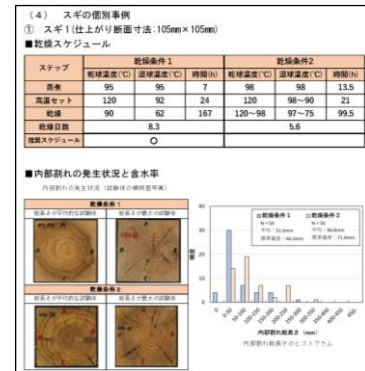


図 2 普及資料の例(スギ)

3 成果の活用と留意点

- (1)アンケート調査は石川県以外の 10 道県でも実施したものであり、普及資料は(一社)全国木材組合連合会のホームページ(https://www.zenmoku.jp/driedwood/dried/4_index_detail.php)から無料でダウンロード可能である。
- (2)県内に導入されている乾燥装置(蒸気式の高湿タイプ)を活用できる。
- (3)乾燥前の材の含水率(重量)に応じて乾燥時間を調節する必要がある。

問合せ先: 資源開発部 TEL 076-273-1873

担当者: 松元 浩、石田洋二、鈴木修治

本研究は、林野庁補助事業「令和 3 年度木材製品の消費拡大対策のうち CLT 建築実証支援事業のうち CLT 等木質建築部材技術開発・普及事業」の支援を受けて行った。